



《共通事項》

◆生育状況について

1. 管内の生育状況〔開花日〕

品目	品種	平年	令和6年
杏	新潟大実	3月27日	4月 2日
プルーン	くらしま	4月 7日	
梨	南水	4月 8日	

◆当面する重点作業について

1. 春季干ばつ対応として、晴天が7日以上続いたら20～30^ミのかん水を定期的に行い、初期生育を順調に進めることが重要です。また、敷きワラについては 晩霜の心配がなくなってくる5月末より梅雨前までに“樹冠下に敷きワラ”を行う。
2. 人工受粉を励行し、結実を安定させる。共同開葯所を積極的に利活用する。

◆ナシヒメコン・コンフューザーN・スカシバコン設置について

1. 設置方法は、資材と一緒に配布される説明書によって、適期に設置を行う。
2. 屋際等で生育の早い園地は、越冬成虫の発生も早いので早めに設置する。
3. プルーン・すもも生産者は、ナシヒメコンの第2期設置分を、梨の生産者は、コンフューザーNを配布されても、設置時期まで密封したまま、冷暗所(5℃以下)に保管して下さい。

《プルーン・すもも》

◆第3回薬剤散布の実施について

1. 散布時期: 4月23日(火)～4月29日(月) 散布日 月 日
2. 調 合 量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
(アプロードフロアブル)	100ml	カイガラムシ類	14日
Ⓜモスピラン顆粒水溶剤	50g	シンクイムシ類・アブラムシ類	前日
(アグレプト水和剤)	100g	黒斑病	30日

3. 散布量: 10a当り=400ℓ以上

4. 留意事項

- ① ウメシロカイガラムシの発生が多い場合は、アプロードフロアブル 1,000 倍(水 100ℓ 当り 100ml)を加用または特別散布する。
なお、手散布で枝・幹部にしっかりと薬液をかける。
- ② 降雨が多い場合は、ロブラール水和剤 1,500 倍(水 100ℓ 当り 66g)を加用散布する。
- ③ 黒斑病の発生が心配される場合は、アグレプト水和剤 1,000 倍(水 100ℓ 当り 100g)を加用散布する。特にすももは被害が多いので注意する。
アグレプト水和剤に代えて、アグリマイシン100の 1,500 倍(水 100ℓ当り 66g)を使用しても良い。
- ④ モスピラン顆粒水溶剤は、ミツバチ等訪花昆虫に影響があるため、周囲や時間(ハチの飛びにくい早朝散布)に注意して散布する。

◆第4回薬剤散布の実施について

1. 散布時期: 5月3日(金)～5月9日(木) 散布日 月 日
2. 調合量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
㊦ダイアジノン水和剤	100g	シンクイムシ類	21日

3. 散布量: 10a 当り=400ℓ以上
4. 留意事項
 - ①りんご(生理落果)やもも・ネクタリン(葉葉害)に農薬飛散しないよう十分注意する。
 - ②黒斑病が心配される場合は、マイコシールド 2,000 倍(水 100ℓ 当り 50g)を加用散布する。

◆あら摘果について

摘果は早いほど果実肥大はよいが、第2期の生理落果(不授精による)が開花後2～4週間後にあるため、実止まりを確認してから実施するのが基本。

さらに第3期の生理落果が6月にあり(果実相互、果実と枝葉の養分競合による)、摘果が遅れるとさらなる生理落果につながるため、遅れないように実施する。

着果量の多い品種(スタンレイ・ツアー等)や、結実良好であった品種、樹勢の弱い樹等は、予備摘果に重点を置く必要がある。

くらしまプルーンは、不受実果が判断できるようになったら、早期に摘果する。

1. 時期(満開後30日後ごろ、小指大の時。)
 - すもも(貴陽) ⇒5月上旬頃(平坦部)、プルーン(スタンレイ) ⇒5月中旬頃(平坦部)
2. 程度
 - ①樹勢の弱い樹……………2年枝の摘果を行い、果実肥大に努める。
 - ②生理落果<<少>>品種…あら摘果に重点(仕上げ摘果の2割り増し程度残す)を置き、仕上げは軽度にする。(スタンレイ、アーリーリバー、ベイラー、ソルダム等)
 - ③生理落果<<多>>品種…あら摘果は軽度(仕上げ摘果の3～4割程度多めに残す)にし、2年枝を中心に摘果する。(グランドプライズ、トレジディ、サンタローザ等)
3. 方法(受精した果実は緑色が強く、不受実果は黄緑色を呈する。)
 - ①緑色で正常な果実を残す。病害虫果・奇形果・小玉果・障害果などを落とす。
 - ②下から横向きの果実を残す。上向き果は、風による障害・日焼等で果皮が荒れやすいので落とす。

◆プルーン・すももの花肥施用について

1. 施肥時期: 4月中下旬
2. 施用資材・施用量: 有機専科 10a 当り 2袋 (ノルチッソ 1袋を施用しても良い。)
3. 留意事項: 樹齢及び着果状態を確認し施肥量を加減する。
樹勢の弱りやすいスタンレイなどは多めに施用する。
降雨に合わせるか施肥の前にかん水を行い吸収しやすい状態にする。

《あんず》

◆摘果講習会開催について

下記により、杏の摘果講習会を開催致しますのでご参集ください。

開催日	曜	集合時間	集合場所	担当
4月30日	火	午前 9:30	萩原久光様園(松代城跡西) 場所が不明な方は松代総合センターへ 午前9時20分までに集合	伊藤
		午前 11:00	小野益一様園(東条)	伊藤

◆第4回薬剤散布について

1. 散布時期: 4月27日(土)～5月1日(水)頃(落花15日後頃)

散布日 月 日

2. 調合量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ソ ー ゲ ン	200g (158ml)	ほう素欠乏	—
ストロビードライフフロアブル	50g	黒星病・うどんこ病	7日
㊥スカウトフロアブル	50ml	アブラムシ類	14日

3. 散布量: 10a当り=400ℓ以上

4. 留意事項

①殺虫剤が入るのでミツバチ等引き上げ後に実施する。

②黒星病の防除はこの時期がもっとも重要。(加工でも病害果は荷受けできない。)

③花カスを飛ばすようなつもりで散布を行う。はかま(がく筒)が残ると、灰星病やサビ果等の要因になる。

④昨年、かいよう病の発生が見られた園は、マイコシールド 1,500 倍(水 100ℓ 当り 66g)を加用散布する。

◆(特) 薬剤散布について

1. 散布時期: 第4回散布10日後に必ず散布

散布日 月 日

2. 調合量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ソ ー ゲ ン	200g (158ml)	ほう素欠乏	—
ロブラール水和剤	66g	灰星病	3日
㊥オリオン水和剤	100g	アブラムシ類・ケムシ類	7日

3. 散布量: 10a当り=400ℓ以上

4. 留意事項

①アブラムシが見られる場合は、㊥モスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍(水 100ℓ 当り 25g・年 2 回以内)を特別散布する。

②うどんこ病の発生が心配される場合は、パレード15フロアブル 1,500 倍(水 100ℓ 当り 33ml)を加用散布する。

◆ほう素欠乏と言われる果面障害果

- ・ほう素欠乏対策として葉面散布(ソーゲン)を実施しているが、毎年のように発生する。
- ・春先に雨が少ない場合、発生は多くなる傾向。



◆うどんこ病について

落花期以降、高温乾燥が続くと発生しやすい。品種では、「平和」「信州大実」「新潟大実」に発生が多い。被害の多い場合は、着果量が多い園については、摘果にて被害果を落として対応する。不足している園は、被害の小さいものを残す。

《うめ》

◆第2回薬剤散布について

1. 散布時期: 4月20日(土)～27日(土)頃 散布日 月 日

2. 調 合 量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
オンリーワンフロアブル	50ml	黒星病	前日
Ⓜモスピラン顆粒水溶剤	25g	アブラムシ類	前日
マイコシールド	66g	かいよう病	21日

3. 散 布 量: 10a 当り = 500ℓ 以上

4. 留意事項

①マイコシールドは、収穫21日前までの使用となっているので散布日に注意する。

②黒星病の伝染が始まる大事な防除時期であるので、たっぷりと丁寧に散布する。

③ウメシロカイガラムシの発生が多い場合は、アプロードフロアブル 1,000 倍を(水 100ℓ 当り 100ml・収穫 7 日前まで)を加用散布する。

◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期: 5月4日(土)～5月11日(土)頃 散布日 月 日

2. 調 合 量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
イオウフロアブル	200ml	黒星病	前日
Ⓜバリアード顆粒水和剤	25g	アブラムシ類	前日

3. 散 布 量: 10a 当り = 500ℓ 以上

4. 留意事項

①バリアード顆粒水和剤はミツバチ等に影響が出るので、引き上げ後に散布を行う。

《あんず・うめ共通事項》

◆梅・杏の摘果について

1. 凍霜害の被害が心配される園では、実止まりが確認できるまで摘果作業を遅らせる。
2. 杏は満開後18日～28日頃が適期。本年は4月下旬～5月初月上旬頃からが適当と思われる。
3. 満開後25日以降は果実が重なり、果梗も硬くなり摘果がしづらくなってくる。
4. 梅の豊後については、生理落果終了後に行う。

◆梅・杏の花肥(追肥)施用について

1. 施肥時期: 4月中旬
2. 施用資材・施 用 量: 有機専科10a当り2袋(ノルチツソ 1 袋を施用しても良い。) ※樹齢及び着果状態を確認し施肥量を加減する。

◆枝枯れの処理について

1. 花かすが落ちにくい場合、花腐れが発生しやすい。落花直後の薬剤散布徹底をする。
2. 枝に花カスが残る樹脂が出ている症状の樹では、発見次第切り取り焼却するか埋める。⇒ 切り取った枝を園地に残すと、収穫果の灰星病の発生につながる所以注意する。

《なし》

◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期: 落花直後(花が8割位散った時が目安となる。) 散布日 月 日
2. 調合量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
(展 着 剤)	10ml	—	—
オンリーワンフロアブル	50ml	黒星病・黒斑病・赤星病	前日
㊦モスピラン顆粒水溶剤	50g	アブラムシ類	前日
(ベンレート水和剤)	50g	心腐病	前日

3. 散布量: 10a 当り = 棚栽培300ℓ / 立木栽培350ℓ 以上

4. 留意事項

- ①モスピラン顆粒水溶剤はミツバチ等に影響があるので注意する。ミツバチ等がいない時期・時間(早朝)で散布を行う。
ミツバチへの影響が心配される場合は、モスピラン顆粒水溶剤に代えてウララDF4,000倍(水100ℓ 当り25g)を使用しても良い。
- ②この時期の西洋ナシはサビ果が発生しやすいので、乳剤・展着剤は使用しない。
- ③心腐れ症が心配される場合はベンレート水和剤2,000倍(水100ℓ 当り50g)を加用してもよい。
- ④南水でナシミハバチの発生が多い場合は、アーデントフロアブル2,000倍(水100ℓ 当り50ml)を使用しても良い。なお、ミツバチ等にかからないよう十分注意する。
- ⑤ナシキジラミの発生がみられる場合は果樹技術員まで相談する。アブラムシの被害と酷似しているが、モスピラン顆粒水溶剤では効果が無い。

◆第4回薬剤散布の実施について

1. 散布時期: 前回散布14日後 散布日 月 日
2. 調合量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
(展 着 剤)	10ml	—	—
トレノックスフロアブル	200ml	黒星病・黒斑病・赤星病	30日

3. 散布量: 10a 当り = 棚栽培400ℓ / 立木栽培450ℓ 以上

4. 留意事項

- ①この時期の西洋ナシはサビ果が発生しやすいので、乳剤・展着剤は使用しない。
- ②今回から3回ストピットII 500倍(水100ℓ に200g)を加用散布すると、サビ果・葉焼けが軽減できる。
- ③黒星病の発生が心配される場合は、トレノックスフロアブルに代えて、フルーツセイバー1,500倍(水100ℓ 当り66g)スコア顆粒水和剤3,000倍(水100ℓ 当り33g)を使用してもよい。

◆梨の花肥施用について

1. 施肥時期: 4月中旬
2. 施用資材・施用量: 有機専科10a 当り2袋(ノルチツソ1袋を施用しても良い。)
3. 留意事項: 樹齢及び花芽やせん定の状況を確認し施肥量を加減する。
降雨に合わせるか施肥の前にかん水を行い吸収しやすい状態にする。

◆摘花の実施について(西洋ナシ・日本なし共通)

1. 摘蕾できなかつたら摘花を実施する。
2. 花そう葉のない花(無着葉花そう)、子持ち花の子花はすべて摘み取る。
3. 主枝や側枝の先端部や2年枝の腋芽花はすべて摘み取る。

◆南水の予備摘果実施について

1. 南水は満開14日後～20日後までに1果そうに1果とする。
2. 整形で果柄が長く、できるだけ大きな果実を残す。**3、4番果を残す。**
あら摘果の段階では1番果が最も大きいので、2番目に大きい果実(1番果の隣に位置する果実)を残すとおおむね3、4番果になる。摘蕾、摘花で後半の番花を整理してある場合は果柄の長い果実を残すと3、4番果になる。
なお、凍霜害の被害がある場合は5～6番果も使用して数量を確保する。
3. 必ず短果枝に着果させる。
4. 果台が横向き、または斜めの果台の果実を残す。
5. 着果させない果そう
 - ①2年枝の果そう(えき芽果)⇒条溝果、低糖度果、小玉果
 - ②無着葉果そう⇒肥大不良
 - ③果台が上向きの果そう⇒軸折れ、枝ずれ、日焼け果
 - ④果台が下向きの果そう⇒肥大不良

◆南水栽培講習会の開催について

下記により講習会を実施しますのでご参集ください。

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
4月23日	火	午前 9:30	西澤克敏様園 (真島) 場所が不明な方は真島フルーツセンターへ 午前9時15分までに集合	外谷
		午前11:00	高橋正治様園 (東福寺)	外谷

講師 長野農業農村支援センター飯島普及指導員

◆南水の新梢管理について

1. 剪定の切り口から不定芽が発生するので、主枝の赤道面より上側の芽は手で除芽する。
(赤い芽のうちに行う。)
2. 主枝先端が花芽の場合、2本程度の副芽が出るので早いうちに1本にする。

◆西洋ナシ適正摘果について

1. 予備摘果
 - ①予備摘果の時期
 - ・受精が確認される満開後10～15日頃から始め、満開後30日以内に終了する。
 - 早いほうが果実肥大によい。
 - ・ラ・フランスが終わり次第、他の品種に取りかかる。
 - ②予備摘果の方法
 - ・2～4番果で、果柄が太くて長いものを残す⇒忙しい場合は一番大きい果実を残す。
 - ・サビ、キズ、変形果、病虫害被害果は摘果する。
 - ③摘果の位置
 - ・ラ・フランスは短果枝主体にならせ、オーロラは長果枝(20cm位)にならせる。

《オウトウ》

◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期: 落花直後 散布日 月 日
2. 調合量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
ベルコートフロアブル	50ml	灰星病	7日

3. 散布量: 10a 当り = 10a 当り 400ℓ 以上

4. 留意事項

- ① 花卉を飛ばすように散布する。
- ② ベルコートフロアブルに代えて、フルーツセイバー1,500倍（水100ℓ 当り 66ml）を使用してもよい。

◆第4回薬剤散布について

1. 散布時期: 前回散布14日後 散布日 月 日
2. 調合量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
ベルコートフロアブル	50ml	灰星病	7日
㊦ダイアジノン水和剤	100g	ケムシ類・カイガラムシ類	14日

3. 散布量: 10a 当り = 10a 当り 500ℓ 以上

4. 留意事項

- ① 炭疽病の発生が心配される場合は、オーソサイド水和剤800倍（水100ℓ 当り 125g・収穫3日前まで）を特別散布する。但し、果面の汚れには十分注意する。

◆オウトウの摘果について

1. 摘果の時期は、不受精果などの生理落果が終わる満開3～4週間後までに行う。
2. 1花束状短果枝当り2～3果程度残し、日当りの良い上枝では2果程度残す。

◆オウトウの新梢管理について

着果数が少ない樹は、新梢の発生が旺盛になるので、こまめに摘心を実施する。

1. 摘心時期…満開後3～4週間までに行う。（5月上旬頃が目安）
尚、早いと再伸長しすぎ、遅いと葉芽ができなくなる。
2. 摘心方法…新梢の基部1～2cm（5葉くらい）残して切る。遅れた場合はやや長めに残す。摘心する新梢は、側枝延長枝と競合するものや側枝の背面から発生する強いものとする。

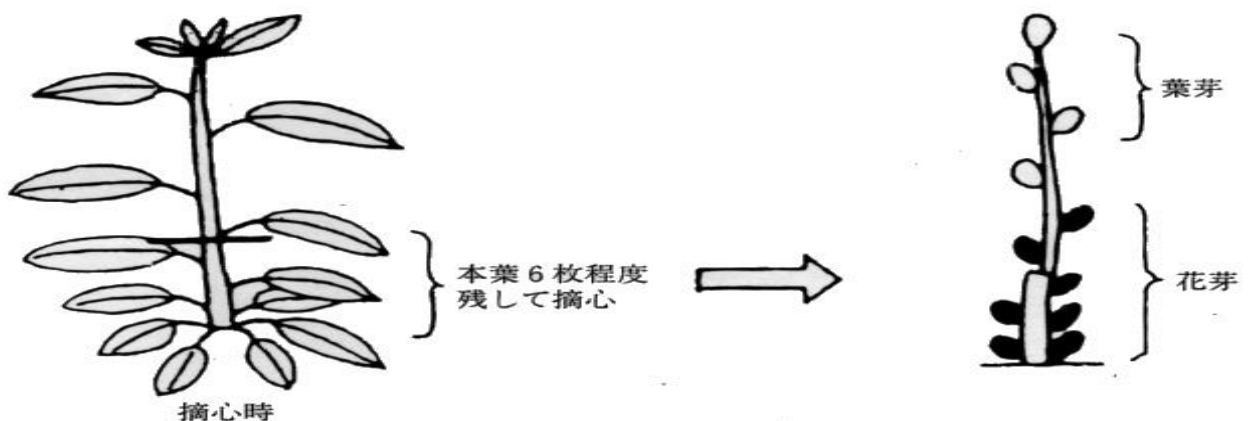


図2 摘心の方法

《栽培に関する営農技術員への問合せ》

徳武（篠ノ井西部）：080-1202-0260／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602

※篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。

佐藤（信更）：090-7179-9866／伊藤（松代・情報担当）：080-2239-6816

松橋（川中島）：090-4816-6297／根津（更北）080-1203-8576

松澤（若穂）080-1191-5166／寺澤（全域・情報担当・編集）：080-1188-5229

吉澤（全域・情報監修）：090-2543-0365

栽培に関する電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《栽培・販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課：299-3311